

2021年11月18日

各位

会社名 株式会社 GRCS
 代表者名 代表取締役社長 佐々木 慈和
 (コード番号：9250 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役管理部長 田中 郁恵
 (TEL. 03-6272-9191)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2021年11月18日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2021年11月期 (予想)		2021年11月期 第3四半期累計期間 (実績)		2020年11月期 (実績)		
		対売上高 比率	対前期 増減率	対売上高 比率	対売上高 比率			
売上高		1,742	100.0	21.7	1,277	100.0	1,431	100.0
営業利益		128	7.4	380.6	96	7.6	26	1.9
経常利益		102	5.9	356.9	91	7.2	22	1.6
当期(四半期) 純利益		145	8.3	212.9	101	8.0	46	3.2
1株当たり 当期(四半期)純利益		123円94銭		87円76銭		40円03銭		
1株当たり 配当金		0円00銭		—		0円00銭		

(注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。

2. 2020年11月期(実績)及び2021年11月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。

3. 2021年11月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(150,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

【2021年11月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は、「テクノロジーデシンプルニ」をビジョンに掲げ、テクノロジーを活用して情報管理の効率化を図ることにより、複雑な外部環境から企業を守ることを目指しております。近年、様々な社会情勢の変化により、企業を取り巻く外部環境が多様化し、ガバナンスの不備による企業不祥事や情報漏洩等の事件や事故が起こることで新たな規制強化等が行われてきました。

当社の属する事業環境は、ビジネスのグローバル化に伴う海外の法規制の適用拡大、巧妙で執拗なサイバー攻撃の頻発、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うテレワークの急拡大等、外部環境が急激に変化しております。外部環境に変化が起こる度に、企業は対応を迫られるものの、海外と比較して日本国内においては、ガバナンスの強化やセキュリティ対策等への対応が遅れております。各企業では、様々なリスクに晒されている状況が続き、対応の遅れから不祥事の発生等に繋がっていると考えております。また、企業不祥事の情報や SNS の普及等により個人でも簡単に発信・拡散できるようになり、過去と比較して同様の不祥事であっても、事業活動に与える影響が大きくなっていると考えております。

このような環境の中、当社は、G：ガバナンス、R：リスク、C：コンプライアンス（以下 GRC という。）及び S：セキュリティの視点に着目し、外部環境の変化に伴う企業課題を解決する事業を展開しております。各企業の課題解決にあたり、各領域に精通したコンサルタントやエンジニアといった専門人材によるソリューションを提供することで、専門性の高いノウハウを活かした課題解決策を提案し、サービスの品質向上に努めております。また、自社開発プロダクトと他社プロダクトの活用により、膨大な情報を集約することで、全社横断的な把握・管理や効率的な対応を可能にしております。このようにテクノロジーを活用した管理強化・業務効率化に取り組み、リスクを見える化することで「ガバナンスの DX 化」を推進しております。

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、前事業年度となる 2020 年 4 月の緊急事態宣言が発令された際には、各企業が将来的な影響を見定めるため新規案件の受注が停滞する、顧客企業内の決裁フローが滞り商談が遅延する等の事態が発生してまいりました。しかしながら、GRC およびセキュリティ領域については大きく需要が損なわれることなく、事業活動を行ってまいりました。前事業年度から当事業年度にかけて業績の推移における大きな変動は見られず、現在では、新規案件受注の停滞や商談の遅延等の事態は解消されております。

以上の結果、2021 年 11 月期の業績は、売上高 1,742 百万円（前期比 21.7%増）、営業利益 128 百万円（同 380.6%増）、経常利益 102 百万円（同 356.9%増）、当期純利益 145 百万円（同 212.9%増）を見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

当社は、GRC ソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。なお、業績予想につきましては、2021 年 11 月期第 3 四半期累計期間の実績値を基に、当該実績及び事業の活動状況を勘案した第 4 四半期の見込み額を合算して算定しております。

(1) 売上高

当社の売上高は、ソリューション部門とプロダクト部門により構成されております。そのうち、ソリューション部門は GRC ソリューション、セキュリティソリューションで区別され、GRC ソリューションは自社開発プロダクトを含めた GRC 関連ツールの設計や構築等の導入支援を行い、セキュリティソリューションは、IT セキュリティの設計、規程・ポリシーの構築、分析・管理・監査・診断等の各種コンサルティング、また、セキュリティプロダクトの設計・構築等の導入支援や規格認証取得の支援を併せて行っております。そして、プロダクト部門は、GRC に関わる「運用」課題の解決、個人情報管理やセキュリティ事故の防止等、GRC 及びセキュリティに特化した自社開発プロダクト又は他社プロダクトを提供しております。

ソリューション部門の売上高は、2021 年 11 月期第 3 四半期累計期間の実績値に 2021 年 9 月以降の見込み額を加算する形で算出しており、1,664 百万円（前期比 22.3%増）を見込んでおります。2021 年 11 月期においては、顧客ニーズのタイムリーな把握とそれに対する提案の一連のサイクルが機能したこともあり、既存取引先へのアップセルが奏功した結果、増収することが見込まれております。

見込み額については、既存取引先及び新規取引先の別に案件を積み上げております。既存取引先とは当期首以前に取引を有する企業であり、新規取引先とは当期より取引の開始が見込まれる企業となります。積み上げられた売上高のうち、既存取引先と新規取引先それぞれに対して、2020 年 11 月期の計画と実績の比較に基づく失注率等を勘案した掛値を乗じて算出しております（なお、毎期の予算策定時についても、同様の方法にて算出しております）。

プロダクト部門の売上高は、サブスクリプション契約やライセンス契約による取引について計上しております。2021 年 11 月期第 3 四半期累計期間の実績値に 2021 年 9 月以降の見込み額を加算する形で算出しており、78 百万円（前期比 10.8%増）を見込んでおります。2021 年 11 月期においては、前期からの継続取引に加えて、新規取引の追加により増加する見込みであります。

なお、当社が取り扱うプロダクトはその需要が読み難いことから、見込み額については 2021 年 11 月期第 3 四半期末（8 月）時点における同部門売上高の横引きで算出しております。

以上の結果、売上高は 1,742 百万円（前期比 21.7%増）を見込んでおります。

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、主に人件費と外注費で構成されております。

人件費は、コンサルタントやエンジニアとなる専門人材の給与等であり、在籍する従業員の給与情報を個別に積み上げ、採用計画に基づく期中の人員増加を加味して算出しております。また、法定福利費は過年度実績より算定した料率を給与に乗じて算出しております。外注費は、売上高の見込み算出時に案件の紐づけにより積み上げて計上し、また、2020年11月期の実績を勘案した掛値を乗じて算出しております。

以上の結果、売上原価は1,269百万円（前期比16.3%増）を見込んでおります。また、既存取引の売上総利益率の見直しを図ったこと等が寄与し、売上総利益は473百万円（同39.0%増）を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、主に人件費、採用教育費、支払手数料により構成されております。

人件費は、管理・事務を担当する従業員の給与等であり、在籍する従業員に加えて採用計画に基づく人員の増加を考慮して算出しております。また、サービスの質向上のため専門人材が求められることから、計画に基づき職種やスキルに応じた採用教育費を見込んでおります。支払手数料は、システムの利用料や営業関連費用であり、過年度実績を考慮した積み上げにより算出しております。

以上の結果、販売費及び一般管理費は344百万円（前期比9.8%増）を見込んでおります。また、人材確保による組織体制の整備により、効率的な運営が行えており売上高の増加に対して販売費及び一般管理費を低く抑えられていること、利益率の改善により売上総利益が増加したことにより、営業利益128百万円（前期比380.6%増）を見込んでおります。

(4) 営業外収益・費用、経常利益

営業外収益は、2021年11月期第3四半期累計期間の実績値とし、第4四半期においては、発生を見込んでおりません。

営業外費用は、支払利息について、過去の実績及び当事業年度の資金調達額に基づく発生見込み額を合算して算出しております。また、上場関連費用のうち営業外費用に該当する株式公開費用19百万円を見込んでおります。

以上の結果、経常利益102百万円（前期比356.9%増）を見込んでおります。

(5) 特別利益・損失、当期純利益

特別利益及び特別損失は見込んでおりません。

税金費用については、繰越欠損金のうち当期控除額を考慮した課税所得に法定実効税率を乗じて算出しております。また、将来の課税所得を合理的に見積もり、控除可能な繰越欠損金に係る繰延税金資産を算出し、法人税等調整額を計上しております。

以上の結果、当期純利益145百万円（前期比212.9%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上



2021年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年11月18日

上場会社名 株式会社GRCS 上場取引所 東
 コード番号 9250 URL https://www.grcs.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 慈和
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 田中 郁恵 TEL 03 (6272) 9191
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年11月期第3四半期の業績 (2020年12月1日～2021年8月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年11月期第3四半期	1,277	-	96	-	91	-	101	-
2020年11月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年11月期第3四半期	87.76	-
2020年11月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 当社は2020年11月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年11月期第3四半期の数値及び2021年11月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年11月期第3四半期	753	212	28.2
2020年11月期	599	110	18.5

(参考) 自己資本 2021年11月期第3四半期 212百万円 2020年11月期 110百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年11月期	-	-	-	0.00	0.00
2021年11月期	-	-	-	-	-
2021年11月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年11月期の業績予想 (2020年12月1日～2021年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,742	21.7	128	380.6	102	356.9	145	212.9	123.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年11月期3Q	1,159,000株	2020年11月期	1,159,000株
② 期末自己株式数	2021年11月期3Q	一株	2020年11月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年11月期3Q	1,159,000株	2020年11月期3Q	一株

(注) 当社は、2020年11月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、前第3四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経済環境が続く中、経済政策等の効果により企業収益の持ち直しが見られたものの、同感染症の再拡大により個人消費等は弱含みの状況となりました。先行きについては、感染症対策やワクチン接種が優先的に取り組まれていること、また、海外経済が改善傾向にあること等から、日本国内経済も回復基調となることが期待されております。しかしながら、依然として同感染症の影響による経済の下振れリスクや金融資本市場の変動等に注意する必要があります。

当社が属する事業環境においては、サイバー攻撃による不正アクセスやマルウェア感染等の被害やガバナンス体制の不足による企業不祥事の発生、継続する緊急事態宣言に伴うテレワーク環境の整備等、GRC及びセキュリティ領域に関する対応が、引続き必要となる状況にあります。

このような環境の中、事業拡大のため、ソリューション及びプロダクトの連携を強化し、ワンストップで提供可能な体制を構築することでサービスの拡大に努め、クロスセル、アップセルによる収益拡大を図ってまいります。また、顧客ニーズのタイムリーな把握とそれに対する提案の一連のサイクルが機能し、既存顧客へのアップセルが奏功いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高1,277,523千円、営業利益96,900千円、経常利益91,546千円、四半期純利益101,708千円となりました。

なお、当社はGRCソリューション事業の単一セグメントであり、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ154,130千円増加し753,568千円となりました。増加の主な要因は、長期案件の売掛金を一部回収したこと等により売掛金が20,586千円減少した一方で、借入による資金調達等により現金及び預金が164,334千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ52,104千円増加し540,677千円となりました。増加の主な原因は、資金調達により長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が46,859千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ102,025千円増加し212,890千円となりました。これは四半期純利益の計上により利益剰余金が101,708千円増加、第3回新株予約権の発行により新株予約権が317千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は28.2%（前事業年度末18.5%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年11月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	254,214	418,549
売掛金	250,459	229,873
仕掛品	6,451	1,315
前渡金	16,802	23,248
前払費用	8,819	5,744
未収還付法人税等	2,974	—
その他	785	255
流動資産合計	540,507	678,986
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,806	9,741
工具、器具及び備品（純額）	680	1,574
有形固定資産合計	5,486	11,316
無形固定資産		
ソフトウェア	12,500	8,139
無形固定資産合計	12,500	8,139
投資その他の資産		
長期前払費用	3,608	4,188
繰延税金資産	23,641	33,624
差入保証金	13,692	17,314
投資その他の資産合計	40,942	55,126
固定資産合計	58,930	74,582
資産合計	599,437	753,568

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	61,143	39,949
短期借入金	—	50,000
1年内返済予定の長期借入金	70,620	72,428
未払費用	97,324	74,479
未払法人税等	—	150
未払消費税等	53,744	32,174
前受金	40,310	44,155
預り金	5,097	5,577
賞与引当金	—	13,986
流動負債合計	328,240	332,900
固定負債		
長期借入金	156,641	201,692
資産除去債務	3,690	6,084
固定負債合計	160,331	207,776
負債合計	488,572	540,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	14,469	14,469
利益剰余金	46,396	148,104
株主資本合計	110,865	212,573
新株予約権	—	317
純資産合計	110,865	212,890
負債純資産合計	599,437	753,568

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
売上高	1,277,523
売上原価	940,020
売上総利益	337,502
販売費及び一般管理費	240,602
営業利益	96,900
営業外収益	
受取利息	2
受取手数料	200
その他	37
営業外収益合計	239
営業外費用	
支払利息	2,993
為替差損	2,190
その他	409
営業外費用合計	5,593
経常利益	91,546
税引前四半期純利益	91,546
法人税、住民税及び事業税	△179
法人税等調整額	△9,982
法人税等合計	△10,161
四半期純利益	101,708

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響)

新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の「（追加情報）（会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響）」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について、重要な変更はありません。

なお、この仮定は不確実性が高く、今後の感染症拡大状況により経済活動の制限等を受けた場合は、当社の財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。